

日本語日本文学専攻

1. 専修科目、授業科目、単位数、担当者及び主研究内容等

※ 担当者氏名前の○印は、平成31年度の学生募集担当者を表します。

専修科目	授業科目	単位数	担当者	主研究内容等	
日本語学	日本語学演習Ⅰ	4又は8	准教授 博士(文学) ○衣畑 智秀	日本語の歴史変化を上代から近代まで広く研究しています。これまで取り扱った現象は、接続助詞・副助詞の歴史変化、名詞抱合、疑問から派生した構文の歴史などがあります。また近年は、上代語の形態論に加え、日本語(史)と琉球語の対照研究も視野に入れ研究を行っています。	
	日本語学特講Ⅰa	2			
	日本語学特講Ⅰb	2			
	日本語学特講Ⅰc	2			
	日本語学特講Ⅰd	2	教授 ○山縣 浩	現代共通語の歴史的背景に関する研究を中心に地域語の変遷に関する研究も関連して行っています。近年は、現代共通語の直接の母体である標準語とそれが書き言葉化された言文一致体の成立について、明治時代前半の資料に基づいて研究を進めています。	
	日本語学演習Ⅱ	4又は8			
	日本語学特講Ⅱa	2			
	日本語学特講Ⅱb	2			
	日本語学特講Ⅱc	2	教授 ○江口 正	言語学的手法を用いながら、現代語の文法を中心に研究を進めています。従属節や連体修飾節の構造、方言の文法、助詞の歴史的变化などが最近の主な研究のトピックですが、統語論・形態論・意味論・音韻論などのさまざまな分野の分析方法を応用しています。	
	日本語学特講Ⅱd	2			
	日本語学演習Ⅲ	4又は8			
	日本語学特講Ⅲa	2			
日本語学特講Ⅲb	2	教授 ○田坂 順子	専門は平安朝文学。最近注目しているのは、九世紀の文学です。『竹取物語』が書かれ、都良香・菅原道真や古今歌人達が活躍していたこの時代には、『源氏物語』や『枕草子』が生み出される直前の胎動が感じられるからです。		
日本語学特講Ⅲc	2				
日本語学特講Ⅲd	2				
日本語学特講Ⅲd	2				
日本文学	日本文学演習Ⅱ	4又は8	教授 ○山田 洋嗣	平安から江戸期に至る和歌。特に表現の生成と表現意識の研究、歌学に関わる研究、また両者の相関についての研究。	
	日本文学特講Ⅱa	2			
	日本文学特講Ⅱb	2			
	日本文学特講Ⅱc	2			
	日本文学特講Ⅱd	2	教授 ○高橋 昌彦	江戸時代の学芸。特に文人の有り様について興味を持っている。文学・思想・教育・芸術・諸芸など、幅広い視点をもって研究していく方法である。	
	日本文学演習Ⅲ	4又は8			
	日本文学特講Ⅲa	2			
	日本文学特講Ⅲb	2			
	日本文学特講Ⅲc	2	准教授 博士 (文献文化学) ○永井 太郎	専攻は主に、明治から大正にかけての近代文学です。特に、幻想文学でよく扱われるテーマやイメージを取り上げ、その時代的な意味や変遷を、文献に基づいて、実証的に明らかにすることを目的としています。具体的には、これまで、夢や潜在意識、四次元やピグマリオン・コンプレックスといったテーマと明治・大正の小説との関わりについて考察してきました。	
	日本文学特講Ⅲd	2			
	日本文学演習Ⅳ	4又は8			
	日本文学特講Ⅳa	2			
	日本文学特講Ⅳb	2	教授 ○國生 雅子	詩歌を中心とする近代文学研究。特に萩原朔太郎、北原白秋が研究対象であるが明治末期のパンの会とその周辺の人々に広く関心を抱いている。更に最近では白秋の童謡に関連して、近代における歌謡研究へと関心を広げている。	
	日本文学特講Ⅳc	2			
	日本文学特講Ⅳd	2			
	日本文学特講Ⅳd	2			
	日本文学	日本文学演習Ⅴ	4又は8	准教授 博士 (比較社会文化) ○中野 和典	昭和から現代の散文作品を中心に近現代文学を研究しています。現時点では特に、安部公房作品の研究を第一の柱、原爆文学の研究を第二の柱、近代の文学教材の研究を第三の柱とし、それらの相互関係にも目を向けながら研究を進めています。
		日本文学特講Ⅴa	2		
日本文学特講Ⅴb		2			
日本文学特講Ⅴc		2			
日本文学特講Ⅴd		2	非常勤講師 大島 仁	【平成30年度開講】	
日本文学演習Ⅵ		4又は8			
日本文学特講Ⅵa		2			
日本文学特講Ⅵb		2			
日本文学特講Ⅵc	2				
日本文学特講Ⅵd	2				
日本文学研究Ⅰa	2				
日本文学研究Ⅰb	2				

その他の科目（担当者未定科目）

授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
日 本 語 学 研 究 I a	2	日 本 文 学 演 習 VII	4又は8
日 本 語 学 研 究 I b	2	日 本 文 学 特 講 VII a	2
日 本 語 学 研 究 I c	2	日 本 文 学 特 講 VII b	2
日 本 語 学 研 究 I d	2	日 本 文 学 特 講 VII c	2
日 本 語 学 研 究 II a	2	日 本 文 学 特 講 VII d	2
日 本 語 学 研 究 II b	2	日 本 文 学 研 究 I c	2
日 本 語 学 研 究 II c	2	日 本 文 学 研 究 I d	2
日 本 語 学 研 究 II d	2	日 本 文 学 研 究 II a	2
特 別 講 義 I a	2	日 本 文 学 研 究 II b	2
特 別 講 義 I b	2	日 本 文 学 研 究 II c	2
特 別 講 義 I c	2	日 本 文 学 研 究 II d	2
特 別 講 義 I d	2	日 本 文 学 研 究 III a	2
特 別 講 義 II a	2	日 本 文 学 研 究 III b	2
特 別 講 義 II b	2	日 本 文 学 研 究 III c	2
特 別 講 義 II c	2	日 本 文 学 研 究 III d	2
特 別 講 義 II d	2	日 本 文 学 研 究 IV a	2
特 別 講 義 III a	2	日 本 文 学 研 究 IV b	2
特 別 講 義 III b	2	日 本 文 学 研 究 IV c	2
特 別 講 義 III c	2	日 本 文 学 研 究 IV d	2
特 別 講 義 III d	2		

2. 履 修 方 法

- ① 学生の標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計32単位以上を修得しなければならない。
- ② 授業科目のうちから、一つの演習及びこれと同じ教員が担当する二つの特講を選定し、これをその学生の専修科目とする。
- ③ 専修科目の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受けなければならない。
- ④ 専修科目の演習8単位及び特講4単位を必修科目として履修し、その他の授業科目のうちから20単位以上を選択科目として履修しなければならない。
- ⑤ 専修科目の演習は2年間8単位の履修を原則とするが、専修科目としない演習は、選択科目として1年間4単位の履修を認めることがある。
- ⑥ 同一名称にa, b, c, dを付した特講、研究及び特別講義のうち、a, bは西暦偶数年度、c, dは西暦奇数年度に開講し、a, cはその年度の前期、b, dは後期に開講する。専修科目、選択科目のいずれかを選定する場合も、これらを自由に組み合わせて所定の単位とすることができる。
- ⑦ 指導教員が当該学生の研究上特に必要と認めた場合は、第4項の規定にかかわらず、他の専攻博士課程前期及び修士課程の授業科目を、8単位を限度に選択科目として履修することができる。
- ⑧ 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。